

さいとう
齊藤

きしお
喜志雄 議員

幕別高校の空き教室を利用した 高等養護学校の分校・分教室の開設について

少子化が進行しているにもかかわらず、特別支援学級（学級・高等部）に通う児童・生徒数は急増し、学校数・教室数・教員数はかつてなく逼迫している。こうした背景には、文科省が「特殊教育」に替わる「特別支援教育」制度を打ち出し、障害児教育の政策を大きく転換したことにありとされる。北海道にあって、各圏域から学校設置や学級増設の声が上がっているが、財政状況もからんで条件整備が追いついていないのが実態である。

そうしたなか、道教委は2013年度中に中札内高等養護学校への進学希望者増が見込まれるとして、幕別高校の空き教室を活用した分校・分教室を2学級規模で開設することを決めた。その決定のプロセスもさることながら、急場しのぎの数合わせと財政論が優先した政策にならないようにするための課題は非常に多いものとする。

以下、3点について所見なり見解を伺う。

- ①分校又は分教室が設置されることについて。
- ②受け入れ体制の整備について。
- ③幕別高校存続への影響について。

③ 相乗効果により幕別高校の教育や支援などに努めていきたい。

また、教職員や保護者が安心して開校を迎えることができるよう幕別高校や中札内高等養護学校とも緊密に連携を図り、必要な要望や支援などに努めていきたい。

教育長 ① 今回の取り組みは道内では初めての試みであり、一つの校舎に二つの学校ということ、体育館やグラウンド、さらには音楽室などの特別教室を共有することに伴う調整、学校行事の持ち方、生徒会や部活動のあり方など、これまでと異なったさまざまな対応が生じてくる。ノーマライゼーションの理念のもと、二つの学校の生徒や教職員が交流を図り、お互いの立場を理解し、高校と高等養護学校との密接な連携が構築されることで、大きな効果があらわれるものと期待をしている。

② これまで、道立学校の整備については、町教育委員会としてはかわりを持った前例はないが、今回の計画については、校舎整備・改修については、エレベーターの設置、トイレの洋式化、車いす対応トイレの整備、スロープの設置など現校舎のバリアフリー化や網戸の設置などを幕別高校を通して要望をしている。



幕別高等学校での授業の様子

力も幅が広がり、これまで以上に個々に応じた指導が展開され、こうしたことが、生徒の学力や資質の向上につながり、さらには、幕別高校への進学希望者の増加につながることを期待している。

再質問 中卒者の激減期を見据え、幕別高・江陵高・分校または分教室の存続とありようを一体的・総合的に捉えて検討するための組織を立ち上げ、道教委の「公私立高配置計画案」や「特別支援学校配置計画案」に対応していく必要はないか。

答 教育環境整備等も含めて、併置校のあるべき姿はどうか等々の意見を聞く協議会的な検討会を新年度において考えていきたい。